



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

小中学校における一貫性・継続性を考慮した情報活用カリキュラムの基礎研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 村瀬, 康一郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/219

まえがき

小学校や中学校にパーソナルコンピュータ等の情報機器の導入が進み、情報教育の実施環境が整いつつある。しかし、小・中ともほぼ同時とあってよい時期にパソコン導入が利用がはじまっているため、そこで行われている情報教育の内容や方法が、同じような内容やレベルで実施されているのが現状である。このままでは、小学校で学習したことから中学校でも繰り返すことになりかねない。したがって、小学校から中学校、さらに高校までを視野に入れた、継続性・一貫性のある情報教育のカリキュラムを早急に策定するための基礎研究として、以下のような課題を解決する必要がある。

- ① 情報活用にかかわる技能・技術・知識を検討し、それらについて学習可能な学年段階を明らかにした学習系列案の構成
- ② 各校種および各教科での情報活用に係わる学習内容を調査し、教科内容からの情報活用の内容と配列の試案の作成
- ③ 学年段階による学習可能な情報活用の技能・活動・知識の系統案と、教科内容とをすり合わせた継続性・一貫性のある情報教育カリキュラム試案の構成
- ④ 指導要領や教科書などの資料から各教科の内容に含まれている情報活用に関連する内容や学習活動など学習項目の調査分析

本研究では、とくに小中学校の理科と中学校数学について、その学習内容と情報活用に関連する項目を検討分析して、関連表を作成した。

中学校数学では、いくつかの領域について関連表を作るとともに、これまで開発してきた学習用ソフトを整理し、学習内容や活用場面との対応を明確にした。さらにそれらにもとづいて、10の実践研究授業を実施した。

小学校理科では、物理領域、化学領域、生物領域、地学領域および4領域に係わる学習内容で、「情報の収集・選択」「情報の分析・整理・理解」「情報の判断・創造」「情報の伝達」の4つの情報活用のどの部分が扱えるかを関連表としてまとめた。中学校理科においても、第一分野と第二分野で同様の関連表を作成した。また、小学校理科においても、情報活用能力のうち、とくに情報の創造と伝達に主眼をおいてネットワークによって情報交流をする実践研究授業を実施した。

また、既存教科の枠をはなれ、小学校低学年における情報活用にかかわる活動の可能性を検討するために、10時間の授業カリキュラムを設計して実践授業も実施した。

今回の研究では、小学校から中学校までの全学年を見通す情報活用カリキュラム案の作成までにはいたらなかったが、理科と数学について、学習内容と情報活用の関連を明らかにすることができた。

本研究を実施するにあたり、研究分担者や研究協力者、多くの関係者の方々のご協力をいただいた。記して感謝の意を表します。

研究代表者 村瀬康一郎（岐阜大学・教育学部）